

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2018年度 第1号

事務局：〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大阪教育大学 教育学部 教員養成課程 橋本健一研究室内

E-mail: kelesoffice@gmail.com 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2018年8月9日発行



巻頭言

英語教育は今 — JASELE2018全国英語教育学会京都研究大会へのお誘い

関西英語教育学会 (KELES) 会長 里井久輝 (龍谷大学)

英語教育は今、大きなそして強い潮流のさなかにあるように思えます。その流れの是非はともかく、たとえば、小学校5・6年の英語教科化、小学校中学年からの英語教育の扱いと文字の導入、ローマ字の指導、そして小学校・中学校・高等学校および大学の連携の明確化、さらに直近では大学入試の変化等々、新しい指導要領ともども現場での指導は待ったなしの状況にあります。

このような大きな流れの中であって、指導する側は最適解を求めてよりよい対応・適応をしていく必要がございます。

来る8月25・26日の両日に、龍谷大学大宮学舎で開催されますJASELE2018全国英語教育学会京都研究大会は、そのような現況に対応し、これからのあるべき英語教育を考えるすばらしい機会となることと存じます。

小学校・中学校・高等学校・大学で英語教育の現場におられる先生方、研究者、そして大学院生・大学生の皆さんなど、英語教育に携わる方々が、ともに明日の英語教育の向上について論じ合える場として、また第一線の研究成果の発表の場として、特別講演、研究発表・実践報告・ポスター発表、研究フォーラム、シンポジウム、ランチョンセミナー、ワークショップと、数多くの有益な企画・プログラムを取り揃えております。

まだまだ暑さの残る時期の開催ではございますが、会員の皆様におかれましては、是非JASELE2018全国英語教育学会京都研究大会への御参加を賜り、ともに有意義な時間を共有させていただけますことを、心より楽しみにいたしております。

ご案内 8月25・26日は全国英語教育学会 第44回京都研究大会へ！

会長からのご案内の通り、本年度の全国大会は京都で開催されます。会員の皆さんはもとより、全国会員でないという方もぜひご参加ください。詳細は大会HPをご覧ください。

日時：2018年8月25日（土）・26日（日）

会場：龍谷大学・大宮キャンパス

大会HP：<http://www.keles.jp/jasele2018/>

報告 関西英語教育学会2018年度（第23回）研究大会

開催日：2018年6月9日（土） 会場：関西国際大学・尼崎キャンパス

2018年6月9日(土)に、関西国際大学尼崎キャンパスを会場に、第23回研究大会が開催されました。今回は、坂本南美先生によるKELES企画ワークショップと阿部公彦先生によるご講演の他、研究発表・事例報告が12件と盛りだくさんの内容となりました。約70名の方がご参加くださって、発表時だけでなくアフタヌーンティーの会場でも、講師の先生方や発表者と活発な議論を繰り広げるなど、本年度も盛会となりました。

ご発表くださった皆様、講師をお引き受け下さった坂本先生、阿部先生をはじめ、ご参加くださった皆様、展示協賛の企業の皆様、会場校の関西国際大学尼崎キャンパス関係者の皆様（特に会場の手配に関わる手続きで多大なるご協力をくださった有本先生、河内山先生）に心から感謝申し上げます。

企画ワークショップ

「英語による『やり取り』に焦点をあてた言語活動をつくる5つのtips—小・中・高・大のつながりを見据えて—」

坂本 南美（岡山理科大学）

授業中にペア・グループ活動をして、学習者が一方的に自分の話をしたり、相手の話を聞くだけで終わってしまうことは少なくない。言語活動において、自分の伝えたいことを伝え、相手のことを理解するためには何が重要なのか？中学校で教鞭を取っておられた坂本先生は今回、新学習指導要領の英語での『やり取り』に焦点を当て、授業で「meaningfulな『やり取り』」を生み出すためには何が重要なのかについてお話しくださった。

まずワークショップは、名前の漢字の意味をエピソードも交え紹介し合うMay I ask

your name?や、前に表示された英単語をペアの相手のヒントを基に当てるGuessing gameから始まり、会場はスタートから実際の教室のように活気に満ち溢れていた。坂本先生は、これらの活動を行う中で大切な5つのtipsとして、①学習者が「インプット→インテイク→アウトプットの一環だと意識する」こと、②学習者に「やり取りをするための素材を持たせる」こと、③言語活動から授業内容にスムーズに移行、または、授業内容を言語活動に生かせるように「授業の流れの中に、自然な場面・状況をはめ込む」こと、④「今、ここでやり取りする相手への意識を持たせる」こと、⑤「教師はfacilitatorに徹する」ことが重要であると述べられた。その際に、Raphael (2002)を用いて、場面によって教師が指導における役割を変えていく必要があることについてもお話しされた。

その後、学習者が『やり取り』をしづらい場合に考えられる要因とそれを乗り越えるためのヒントや、高等学校・大学へのつながりを見据え、より発展的に力を育成するには何が重要なのかについて、実践事例や教科書・ワークシートを用いた多数の言語活動をご紹介いただき、フロアの皆様と実際に活動を行った。また、言語活動を行う際、学習者間で会話を発展させるために効果的な発問やあいづちの仕方、モチベーションを向上させる方法などについてもお教えいただいた。

英語の授業において「meaningfulな『やり取り』」をする力をどのように育成していくのか、また、指導における教師の役割はどうあるべきなのかについて、様々な素晴らしいヒントがちりばめられたワークショップであった。

（報告者：桃山学院大学 濱田 真由）

講演

「この英語騒動から見えてくること」

阿部 公彦（東京大学）

2020年度からの大学入試改革に向けた先般の動きに対して、先生が御著書『史上最悪の英語政策』で述べられた問題提起についての説明をされた。例えば4技能の比重を慎重に考えるべきであることなどである。その後3つのポイントについてご講演を進められた。

1つ目は、4技能を身につけたいのであれば、まずは芯となる語彙や構文を理解する必要がある、そのためには、リスニングに比重を置くべき、というご指摘であった。その理由の一つとして、英語の学習は4ステップ（①提示された文の音（音節）と語彙の切れ目（アクセントと語彙）が理解できる、②「句」「節」「文」の切れ目が理解できる、③「切れ目」の位置の認知（階層）、④「強調」を理解する）から成るためであり、日本人は特に英語の音が取れないため、とご説明くださった。

2つ目は、荒井紀子先生の御著書『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』を引かれ、人間ならではの「読解力」についてお話された。AIは情報集めが得意であり瞬時に気づく“察知型”であるが否定と例外は苦手であること、それに対し、人間は否定と例外に対処でき、言葉を時間的に体験する（線状に意味を受け取る）、という内容であった。そのため、人間であるからこそ「意味のあるイミ」、すなわちmeaningだけでは不十分でsignificanceを理解するような読解力が必要である、と説明された。また、歴史とともに「注意力」に対する重要性および種類が変化していて、現代社会では重要な話を話す際に入ってくる「間」に対する敏感さを身につける必要があることも指摘された。

3つ目は、「言」（話し言葉）と「文」（書き言葉）との日英格差についてのお話しであった。ジェーン・エアのオリジナル英語版とその日本語訳とを比較対照され、話し言葉と書き

言葉とのかい離は、英語よりも日本語のほうが大きく、日本人は「声の文化」である英語を体得する必要があると述べられた。

英文読解力について、英語教育ではhow to improveの視点（文法力や語彙力をつけるなど）で議論されることが多いが、先生のお話からwhat kind of（どのような読解力）という新たな視点を得ることができた。今後の英語教育に影響を及ぼすAIの台頭という観点においても、非常に示唆に富み興味深い内容のご講演であった。

（報告者：立命館大学 平野 亜也子）



報告 2018年度 関西英語教育学会総会

開催日：2018年6月9日（土） 会場：関西国際大学・尼崎キャンパス

2018年度総会では、鳴海智之先生（兵庫教育大学・本学会幹事）による司会進行のもと、議長に加藤雅之先生（神戸大学）が選出され、2017年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2018年度活動計画および予算案などについて報告・提案がなされ、承認されました。

1. 2017年度活動報告

研究大会等

◆ 関西英語教育学会2017年度（第22回）研究大会

日程：2017年6月10日（土）・11日（日）

場所：近畿大学

内容：LET関西との共催

企画ワークショップ2件、ブランチセッション2件、イブニング・セミナー2件、講演1件、シンポジウム1件、研究発表・事例報告15件、ポスター・デモ発表2件、公募フォーラム1件

◆ 全国英語教育学会第43回島根研究大会

期日：2017年8月19日（土）・20日（日）

会場：島根大学 松江キャンパス

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060)

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：中国地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム

課題研究フォーラム：「生徒の言語使用につながる英語授業」を考える

提案者：中田賀之先生（同志社大学）・池野修先生（愛媛大学）・長沼君主先生（東海大学）・興津紀子先生（神戸大学附属中等教育学校）

セミナー・共催行事

◆ 関西英語教育学会 第41回セミナー

日程：2017年10月15日（日）

会場：龍谷大学・大阪梅田キャンパス

テーマ：英語教育研究事始め

◆ 関西英語教育学会 第42回セミナー

日程：2017年11月18日（土）

会場：龍谷大学・大宮キャンパス

テーマ：英語音声指導：音韻習得から識字支援まで

◆ 関西英語教育学会 第43回セミナー

日程：2017年12月23日（土・祝）

会場：龍谷大学・大阪梅田キャンパス

テーマ：タスク・ベースの英語指導

◆ 関西英語教育学会 第21回卒論修論研究発表セミナー

日程：2018年2月11日（日・祝）

会場：関西国際大学・尼崎キャンパス

発表21件、ポスター・デモ発表7件

紀要『英語教育研究』

第41号刊行（紀要編集委員会）

課題研究プロジェクト

「生徒の言語使用につながる英語での授業」を考える（プロジェクト・リーダー：中田賀之（同志社大学），研究期間：2016～2017年度，2か年）

授業研究プロジェクト

なし

広報・発行

- ・ニューズレター 年4回発行（4月，7月，12月，3月：含メール配信）
- ・紀要『英語教育研究』第41号刊行（紀要編集委員会）
- ・学会会員情報誌『KELESジャーナル』第3号刊行

2017年度決算報告

2017年度の収入・支出は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2017年度決算報告書

収入の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
前年度繰越金	3,231,728	3,231,728	
年会費	2,700,000	2,470,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	250,000	169,500	関西英語教育学会第22回研究大会、KELESセミナー（第41～43回）、第21回卒論修論研究発表セミナー、研究大会業者展示
論文集	30,000	11,240	学会紀要SELT販売、論文掲載費
その他	100,000	183,806	全国英語教育学会からの事務局補助費
計	6,311,728	6,066,274	

支出の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
通信費	500,000	487,418	各種郵送代(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費、振込手数料
研究費	1,100,000	1,053,323	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用(研究大会、KELESセミナー、卒論修論セミナー)、研究プロジェクト経費、KELESジャーナル原稿料、大阪高英研広告掲載料、その他
印刷費	800,000	856,490	SELT41号、KELESジャーナル、第21回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷
会議費	50,000	13,662	会議諸経費(幹事会、理事会)
交通費	180,000	92,000	研究大会・セミナー、幹事・理事会、全国英語教育学会実行委員会の旅費
事務費	20,000	6,554	会議用資料印刷代、名札代
全国年会費	560,000	562,000	2,000円×281名
予備費	30,000	0	
計	3,240,000	3,071,447	

収入総額	6,311,728	6,066,274	
支出総額	3,240,000	3,071,447	
差引残高(次年度繰越金)	3,071,728	2,994,827	

2. 2018年度活動計画

2018年度役員体制

会 長

里井 久輝（龍谷大学）

副会長

泉 恵美子（京都教育大学）

顧 問

沖原 勝昭（京都ノートルダム女子大学）

織田 稔（元関西大学）

齊藤 栄二（桜の聖母短期大学）

瀬川 俊一（京都府立大学名誉教授）

吉田 信介（関西大学）

幹事長（副会長兼務）

橋本 健一（大阪教育大学）

紀要編集委員長

水本 篤（関西大学）

幹 事（7名）

今野 勝幸（龍谷大学）

杉浦 香織（立命館大学）

谷野 圭亮（大阪府立大高専）

照井 雅子（近畿大学）

南 侑樹（大阪府立槻の木高等学校）

山形 悟史（関西大学第一中学校）

山本 玲子（京都外国語大学）

理 事（14名）

今井 裕之（関西大学）

大嶋 秀樹（滋賀大学）

加賀田 哲也（大阪教育大学）

門田 修平（関西学院大学）

坂本 南美（岡山理科大学）

佐々木 顕彦（武庫川女子大学）

中田 賀之（同志社大学）

名部井 敏代（関西大学）

能登原 祥之（同志社大学）

平井 愛（神戸学院大学）

牧野 眞貴（近畿大学）

増見 敦（神戸大学附属中等教育学校）

溝畑 保之（大阪府立鳳高等学校）

藪内 智（京都精華大学）

紀要編集委員（7名）

佐々木 顕彦（武庫川女子大学・短期大学部）

佐藤 臨太郎（奈良教育大学）

西田 理恵子（大阪大学）

能登原 祥之（同志社大学）

平井 愛（神戸学院大学）

大和 知史（神戸大学）

山西 博之（中央大学）

会計監査（2名）

斎藤 倫子（桃山学院大学）

三木 浩平（追手門学院大学）

※ 同職位内では50音順

研究大会等

◆ 関西英語教育学会2018年度（第23回）研究大会

日程：2018年6月9日（土）

場所：関西国際大学・尼崎キャンパス

内容：講演1件，研究発表・事例報告12件，
企画ワークショップ1件

◆ 全国英語教育学会第44回京都研究大会

期日：2018年8月25日（土）・26日（日）

会場：龍谷大学 大宮キャンパス

〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入
大工町125-1

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道
英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信
越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関
西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四
国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：関西地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：なし

全国英語教育学会第44回京都研究大会実行委員会担当プログラム：特別講演1件，ランチョン・セミナー4件

セミナー・共催行事

◆ 関西英語教育学会 第44回セミナー

日程：2018年10月あるいは11月開催予定
会場：未定

◆ 関西英語教育学会 第45回セミナー

日程：2018年12月22日（土）開催予定
会場：未定

◆ 関西英語教育学会 第22回卒論修論研究発表セミナー

日時：2019年2月11日（月・祝）開催予定
会場：関西国際大学（予定）

紀要『英語教育研究』

第42号刊行（紀要編集委員会）予定

課題研究プロジェクト

新規プロジェクト1件程度採択予定

授業研究プロジェクト

新規プロジェクト1件程度採択予定

広報・発行

- ・学会会員情報誌『KELESジャーナル』2018年度内に第4号を刊行予定
- ・ニューズレター 年4回発行（7月・9月・12月・3月予定：含メール配信）

2018年度予算案

2018年度の予算案は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2018年度予算案

収入の部			
項目	2017年度決算額(円)	2018年度予算額(円)	備考
前年度繰越金	3,231,728	2,994,827	>
年会費	2,470,000	2,500,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	169,500	200,000	関西英語教育学会第23回研究大会、KELESセミナー、第22回卒論修論研究発表セミナー、研究大会業者展示
論文集販売	11,240	20,000	学会紀要SELT販売、論文掲載費
その他	183,806	150,000	全国英語教育学会からの事務局補助費
合計	6,066,274	5,864,827	

支出の部			
項目	2017年度決算額(円)	2018年度予算額(円)	備考
通信費	487,418	500,000	各種郵送代(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費、振込手数料、その他
研究費	1,053,323	1,100,000	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用(研究大会、KELESセミナー、卒論修論セミナー)、研究プロジェクト経費、KELESジャーナル原稿料、大阪高英研広告掲載料、その他
印刷費	856,490	850,000	SELT、KELESジャーナル、第22回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷、その他
会議費	13,662	20,000	会議諸経費(幹事会・理事会・会場代)
交通費	92,000	150,000	幹事会・理事会・全国英語教育学会実行委員会の旅費
事務費	6,554	10,000	会議用資料印刷代、文具代、名札代、用紙代
全国年会費	562,000	560,000	2,000円×280名
予備費	0	30,000	
次年度繰越金	2,994,827	2,644,827	
合計	6,066,274	5,864,827	

学会事務局からのお知らせ

◆関西英語教育学会 学会誌『英語教育研究』 (SELT) 第42号 投稿論文募集のお知らせ

関西英語教育学会 (KELES) では、学会誌『英語教育研究』(SELT) 第42号 (2019年3月刊行予定) への論文投稿を下記の通り募集中です。

2018年度に開催された第23回関西英語教育学会研究大会および全国英語教育学会第44回京都研究大会での発表論文が優先されますが、これらの発表を経ない論文についても、一定の枠内で審査対象となります。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

投稿受付期限

2018年8月31日 (木) 22:00 (午後10時厳守)

投稿にあたって

学会ホームページ (<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿要領を熟読し、テンプレート (英語・日本語) をダウンロードし、テンプレートに書かれている諸注意も熟読の上、テンプレートを用いて原稿を作成し、学会ホームページの投稿フォームから投稿してください。

掲載論文の種類

投稿論文：英語教育および広く言語教育に関する理論的・実証的研究論文 (10ページ以上20ページ以内)

研究ノート：英語授業実践に関する報告 (10ページ以内)

*いずれもページ数に参考文献、図表、註、資料を含めます。

掲載論文の著作権 (第39号より改定)

掲載論文の著作権は学会に帰属しますが、ウェブなどでの公開にあたっては書誌情報を明記した上で積極的に行えるようになりました。第39号より、J-Stageにて公開を開始しております。(詳細はhttp://bit.ly/selt_jstageを参照してください。)

投稿先および学会誌に関するお問合せ先

(1) 投稿先：学会ホームページ (<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿フォームから投稿してください。

(2) 投稿した日から2日以上経っても、受領確認のメールが届かない場合は、お問い合わせフォームにて問い合わせして下さい。

◆各種お問い合わせフォームについて

<http://www.keles.jp/>

お問い合わせには、学会ウェブサイトの各種お問い合わせフォームをご利用下さい。

▶入会をご希望の方

▶研究大会

研究大会の発表応募、企業展示の申込みなど

▶各種セミナー

セミナーへの参加登録、発表申込み、企業展示の申込みなど

▶学会誌『英語教育研究』

学会誌への論文投稿など

▶お問い合わせ

学会費、学会誌、研究大会、各種セミナー、入・退会、会員情報の変更、その他学会全般に関するお問い合わせ

◆編集後記

これまでの積み上げを損なわないように思っていたのですが、個人としてやはり力及ばずでした。しかし、会長・副会長・幹事・理事の皆さんが、そして会員の皆さまの活躍で、学会が成立しました。ただただ感謝です。(Y)

引き継ぎ号ということで、共同編集後記としてみました。これまでにご尽力くださった皆様に敬意を表しつつ、slowly but surelyで頑張っていきたいと思っております。会員の皆さま、どうぞよろしく願いいたします。(KH)